

6

2019

三重病院

## ニュースレター

news letter vol.238

## 01 薬剤科の紹介

臨床研究部からのお便りー第14回ー

## 02 5病棟の生活のひとコマ④

「やまばとギャラリー」情報コーナー

## 03 通所支援事業

新任のごあいさつ

## 04 Medical Safety Letter 安全便り(6月)

外来からのお知らせ／外来診察のご案内



## 薬剤科の紹介



## 概況(平成30年度業務実績より)

薬剤科では、病院薬剤師としての職能を発揮すべく、入院・外来の調剤、入院患者さんの服薬指導、チーム医療への参加など、医薬品適正使用に関する業務を行っています。また、薬事委員会事務局業務、電子カルテの薬品マスター管理業務など、薬品管理に関する業務も行っています。

## (1) 人員構成

常勤薬剤師は、薬剤科長1名、副薬剤科長1名、調剤主任1名、薬剤師2名(うち1名は治験業務専任)の5名、非常勤薬剤師は1名です(職員数は合計6名)。学会等認定資格はそれぞれ、日本経腸栄養学会NST専門療法士1名、日本褥瘡学会認定褥瘡薬剤師1名、日本薬剤師研修センター認定小児薬物療法認定薬剤師1名、日本薬剤師研修センター認定実務実習薬剤師2名です。

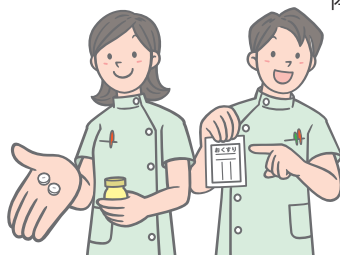
## (2) 診療支援

## ① 院外処方せん発行への対応

平成30年度1ヶ月平均の院内処方せん枚数332枚、院外処方せん枚数2,415枚で、院外発行率は87.9%でした。厚生労働省の方針に従い医薬分業を推進しており、平成30年度から一般名処方も開始しています。患者さん希望により後発、先発医薬品どちらも選択可、入院薬剤業務へのシフト、具体的には薬剤管理指導の増加、医療安全への貢献(処方確認をはじめとする医薬品に関する医療事故防止対策、与薬・注射に関するヒヤリハット件数の減少など)を計画しています。

## ② 服薬指導の推進と医薬品の情報提供

薬剤管理指導業務の算定件数は、平成30年度572件でした。薬剤業務の合理化をはかり、病棟の服薬指導体制を整え、さらなる薬剤管理指導の件数増加に努めたいと考えます。算定件数には



含まれませんが、外来での患者指導(成長ホルモン自己注射指導、内科の血糖測定指導など)、小児科病棟での薬剤指導も行っています。医薬品情報の医師や看護師やその他の医療スタッフへの迅速な提供を心掛けるとともに、病棟での簡易懸濁法による投薬の推進、配合変化を含めた注射ルート管理にも関わっています。

## ③ 医療チームへの参加

現在、医療安全、栄養管理、褥瘡管理、糖尿病、感染対策などのチームに積極的に参加しています。褥瘡管理では日本褥瘡学会認定士の資格を有する者がラウンドに同行しています。また、栄養管理においては日本静脈経腸栄養学会認定NST専門療法士の資格を有する者が同行しています。薬剤師がチームに加わることで、多職種のメンバーと連携をとり患者の状況に的確に対応した医療の提供を実践できるよう対策しています。さらに、病棟担当という点では、小児薬物療法認定薬剤師が小児科病棟を担当しています。また、病院の行事活動にも積極的に参画しています。

## ④ 医薬品管理と後発医薬品の採用推進

麻薬・向精神薬・毒薬・劇薬・覚醒剤原料等の保管・管理については関係法規や院内規定に従い運用しています。また医療安全上注意しなければいけない医薬品をハイリスク薬と定め、それぞれ適正な使用・管理を推進しています。後発医薬品については後発医薬品使用体制加算の施設基準取得(数量ベースの向上、カットオフ値(後発医薬品のある医薬品の割合)の50%クリア)に向け、後発医薬品への切り替えについて積極的に提案していきたいと考えます。

みなさま、どうぞよろしくお願いたします。(薬剤科長 進藤 和明)